

定期上映会 戦傷病者の証言

当館では、戦場での負傷等により多くの苦労を抱えながら生きてきた戦傷病者とそのご家族の証言を映像で記録し、その数は開館から今日までに約200本になりました。
今回の上映会では、展示室でも紹介している戦傷病者を中心に上映します。

上映場所:しょうけい館2階 シアター

上映期間:2024年1月5日(金)～2月6日(火)、
2月14日(水)～3月3日(日)

上映時間:10:00～17:00

上映休止:1月14日(日) 13:00～14:00 (定期講話会開催のため)

四十四年間～脊髄損傷の夫とともに生きぬいて～

毎時00分
より上映

上映時間:約24分

昭和17年に傷痍軍人箱根療養所の看護婦となり、患者であった夫と知り合い、退所して昭和19年に結婚。夫は昭和13年5月17日、中国の戦場で脊髄損傷により下半身麻痺という障害があり、身体中に砲弾の破片が残っていた。新婚生活は戦後直後で、一家の生活を支えるために田圃の作業と、夫の介護生活の日々だった。歩くことができない夫との44年間の夫婦の歩みを振り返る。

展示資料:奉公袋(陸軍)

耐えて得た人生

毎時24分
より上映

上映時間:約19分

昭和14年、郵便局に勤務時、陸軍補充兵で召集。中支鉄山で勤務。湖北省咸寧県付近の戦場で左脚関節部を貫通銃創。南京陸軍病院へ転送され手術。内地還送され善通寺陸軍病院へ転送され再手術。昭和16年、除隊して自宅療養。粉碎骨折のため細かい骨が出てくるたび入退院を繰り返す。松山陸軍病院では7回目の手術となる。足に長期間ギブスをしていたため、足の関節が固着する。除隊後、郵便局へ復職中、太平洋戦争開戦。職場へは自転車通勤。昭和23年、局長として勤務。そのまま郵便業務一筋で勤め上げた。

展示資料:軍隊手帳(陸軍)

想いを絵筆に込めて

毎時43分
より上映

上映時間:約16分

昭和19年3月、ビルマでのインパール作戦の折、トラックが急カーブで荷台の梱包物資もろとも谷底へ転落し、左腕を負傷。3～4日を要してカロー兵站病院に到着し、手術を受けるも完治はしなかった。その後、戦況の悪化から3ヶ月を要してタイのチェンマイへ向かう。当時を「死を覚悟して生きていたから辛いとは思わなかった」と振り返る。

展示資料:戦場スケッチ画

◆上映時間以外でも、情報検索機にてご覧いただけます。◆団体プログラムにより変更となる場合もあります。